



ROTARY:
MAKING A
DIFFERENCE

ロータリー：変化をもたらす

2017～18年度テーマ

中村ロータリークラブ

例会記録 (2017～2018)

会長/松田 基
幹事/荒川 泰士
会報委員長/星野 努

創立/昭和38年10月2日
例会日/水曜日 12:30～13:30
例会場/新ロイヤルホテル 四万十
事務所/四万十市中村小姓町46番地 中村商工会館2F
TEL 0880-35-4551 FAX 0880-35-4553
●ホームページ <http://www.nakamura-rc.com/>

週報 No.2535

第2666回 平成30年4月11日(曇り)

本日のプログラム：ゲストスピーチ 橋本勝幸様 (西南四国歴史研究会会長)

4月18日(水)：野外美化ゾーン例会

4月25日(水)：ゲストスピーチ 伊與田 紗希様

【会長挨拶】松田 基会長

- ・本日のゲストは西南四国歴史研修会会長の橋本勝幸様です。よろしく願い致します。
- ・京都のお茶の老舗・福寿園には「つもり十訓」という家訓がある。「低いつもりで高いのが腰」や「高いつもりで低いのが見識」など、ハッとさせられる文言が並ぶ。

油断を戒める話に徒然草の「高名の木登り」がある。高名な木登りは、高い所にいる間は注意せず、飛び降りてもケガしそうな高さで声をかける。危険な場所では誰しも慎重に動くからだ。慣れや慢心が危ないのは金融機関の仕事も同じ。いつも問題はないからと、手順を一つ省いたりすれば重大なミスに繋がりがねない。こちらはバレないと高をくくっていたか。決裁文書の書き換えが明らかになった国有地売却騒動である。霞が関や永田町の面々は、福寿園の十訓にある「飾るつもりで剥げるのが嘘」「隠すつもりで顕れるのが悪事」をご存じなかったかとみえる。

【幹事報告】福原副幹事

- ・ガバナー事務所より 地区大会報告書 拝受
- ・四万十川ウルトラマラソン実行委員会より 委員会開催のご案内 4/18 14:30～西土佐

【委員会報告・会員発言】◆大杉 幸雄 ゴルフ愛好会長

- ・4/22(日) ユートピアCCにて、5クラブ親睦ゴルフコンペを開催します。
 - ・新居浜RC、新居浜南RC、西条RCの3クラブとの親睦ゴルフ開催。
- 5/5(土) 9:40集合 土佐ユートピアCC 懇親会のみ参加もOKです。

【新会員入会式】

推薦者 大杉幸雄会員

今西 務 昭和40年4月25日生れ(52歳)
住所：四万十市中村丸の内2 四電AP202
勤務先：四国電力(株)中村営業所 所長
最終学歴：高知県立山田高等学校
趣味：ジョギング

職業分類/電力 職業奉仕委員会 親睦委員会



皆さん、こんにちは。55年もの歴史ある中村ロータリークラブの一員に加えて頂き、大変ありがたく光栄に思っております。松田会長のクラブ運営方針に「地域に恩返し」というお言葉がありましたが、当社も企業理念として「地域と共に生き、歩み榮える」という企業像を掲げております。地域の方に支えられて活動する精神を胸に刻み、これから頑張っていきたいと思っておりますので、皆様のご指導をよろしくお願い致します。



【本日のプログラム】 ゲストスピーチ 橋本勝幸様（西南四国歴史研究会会長）



「大阪堺事件と入田村」

皆さん、こんにちは。入田の橋本です。今日は、大阪の堺事件と入田村の話をしていただきます。

堺事件は、慶応4年（1868年）2月15日の夕刻、堺を警備中の土佐藩兵 6番小隊 箕浦猪之吉と、8番小隊 西村左平次が率いる兵士が上陸してきたフランス水平11名を銃撃し、殺害した事件で「やむを得ず起き-発砲した」悲劇的な事件である。

フランス公使ロッシュは、関係者の斬罪と15万ドルの賠償などを要求し、国際問題となる。明治新政府は諸外国との親和交際を決定していて、フランス側の要求をほぼ全面的に受託した。

土佐藩は藩兵を上土に取り立てて名字を与え、家名存続も認めるなどして「藩兵の命と名誉」のバランスを取った。

- ・発砲した兵士を両隊より自白により29名特定し、発砲しなかった44名は船で土佐へ。
- ・事件に関わった29名、全員処刑であったが新政府の交渉により20名の切腹となる。
- ・切腹は小隊長と小頭は特定、残り25名から16名をクジ引きで20名を決定する。

事件より8日後の2月23日、堺妙国寺でフランス側の艦長や政府の役人などが警備を行う中で、不幸で悲劇的な20名の割腹自刃が実行される。しかし、11名の執行直後にフランス側が突然退席し、処刑中止となり残りの9名は助命となった。（フランス兵の被害数と同数で止めるための恩赦的な扱いだろう）

外国事務総裁、土佐藩主 山内豊範はフランス艦にて謝罪を行い、15万ドルのうち5万ドルをフランス側に支払いする（3分割により支払い）

助命の9名は、3月14日に帰国の命により土佐へ帰り、親族預かりとなる。5月21日、渡川限り西へ流罪となり幡多郡入田村へ来ている。

庄屋 宇賀祐之進は村人に対し「流罪人と言えども身命を賭して皇国のために働いた人々…」と尊敬の念を披露して協力を求めた。村人たちの厚い人情に支えられながら生活したという。最初のうちは、1人1人 農家に分宿していたが、のちに見正寺に集まって自炊をした。

その中の横田辰五郎は有岡の有岡山真静寺の和尚と俗縁があると言うことで、真静寺が引き取ったという。入田と有岡でそれぞれが短い間であったが、学問や剣術などを教えている。

8月15日の晩、付近の神社で東西対抗の奉納相撲があり9名もそれを見学に行った。その時、見物中の川谷銀太郎が土俵に飛び上がり、勝負を挑んだ。次々と相手を倒したとき、東組から関取の駒ヶ獄が出てきて土俵の外に投げ出され、それが元で9月5日に病気で亡くなったという。川谷銀太郎は26歳で美青年、体も立派で力も強かったという。

重体の報に母親は驚いて、40里ある山北から駆けつけて来たが、死に目に会えずに川谷の遺した刀を背負って立ち去ったという。

明治元年11月の明治天皇即位の特赦により放免された8名は、川谷銀太郎の眠る墓所でお参りを済ませ、村の人々と別れを告げた。川谷銀太郎の墓は入田富山にあり、今も住民の手で整備され参拝も続いている。

50年法要を地元が、100年法要を土佐史談会幡多支部が行った。今回、150年の法要を入田地区自治会の手で行います。記念碑の除幕式や紙芝居、歴民館の学芸員の講演や堺市の「堺事件を語り継ぐ会」より12名参加、そして山北より歴史家の参加により堺事件を顕彰するとともに、懇親会を執り行います。皆様のご参加をお願い致します。

ご清聴、ありがとうございました。

【ニコニコ箱】

大杉（幸） 会員：今西さん、入会おめでとうございました。ロータリーを楽しんでください。

大杉（幹） 会員：橋本様、貴重な話を聴かせて頂きましてありがとうございました。

大塚会員：入田の橋本様、本日はありがとうございました。

【出席報告】 ・会員総数51名（免除会員4名）

・本日の出席/31名 67.39%

・先週の訂正 MU5 73.33%→84.44%